



南蠻國傳來 不許賣買
烟草一式重寶記
 山東京傳著

雲とて其の香煙たごとくけりしるあり成立のけりれ
 油煙齋が狂言をけりれ林いともたれ世かよ春來が通り
 花よりくもも落紅梅をとり水すしとれ小山田ふれ
 初舎空宿のしりへ先かへて烟草を助かるとい付と
 夫体が離れつゝ加羅よりかきとり梅たとけききれ菊ふを
 の秋去れば旅は曉人ゆゆの國府の言れよとふたこの物
 まていぢゆりてうきとにたごふ人く志是草といふは
 カれり乳家か又またたてしおかたて産交記と題せるあり
 是刻三べん流ぞとてふれり口のふひ草わんをのり
 まるるかんぐとて時
 この心は
 なり
 き
 まるるかんぐとて時
 この心は
 なり
 き
 まるるかんぐとて時
 この心は
 なり
 き
 まるるかんぐとて時
 この心は
 なり
 き

山東京傳
 津江戸京傳
 浪座町を丁目
 米寅三月中旬より新形伊長烟草へ賣出し中

